

6 指導に当たって

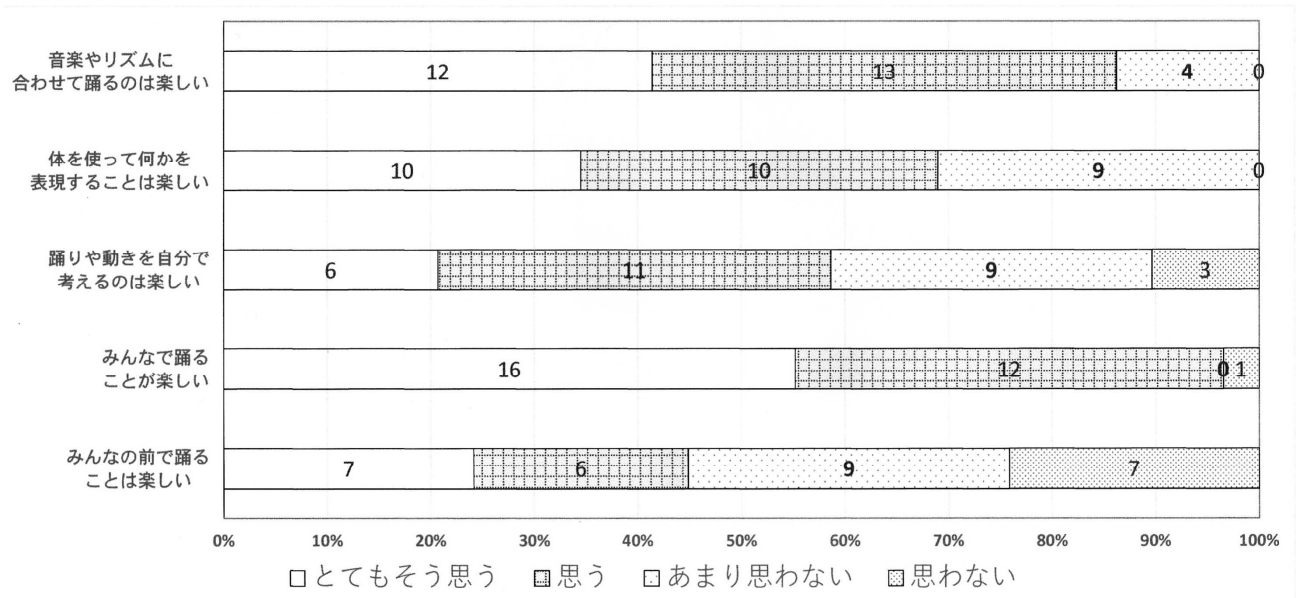
(1) 児童の実態

4年生児童（男子11名、女子18名、計29名）は、体を動かすことが好きであり、休み時間になると外遊びを楽しむ児童が多い。また、水泳や陸上運動だけでなく、スポーツ少年団などにも所属し、多くの児童が運動に親しんでいる。

本学級の児童は、1年生で表現遊びやリズム遊び、音楽科ではジェンカを踊った経験があり、2、3年生のときには、体ほぐしで表現運動などを行っている。また、毎年行う運動会では、ダンスの練習に力を入れて取り組み、様々なテンポの曲に合わせた踊りを披露している。運動会練習においては、多くの児童が音楽やリズムに合わせて体を動かすことを好み、練習に励んでいた。しかし、創造的な表現運動の経験が少ないせいか、自己の心身を解き放し、イメージやリズムの世界に没入してなり切って踊る楽しさや喜びを味わうことができていないと感じられる場面もあった。

表現運動に関する意識調査(下表)では、「友達と一緒に踊ることが楽しい」「音楽やリズムに合わせて踊るのは楽しい」と思っている児童が多いことや、「みんなの前で踊ることに楽しさ」を感じている一方で、他人の前で踊ることに抵抗感をもち児童が半数を超えることなどが分かった。

【表現運動に関する意識調査の結果】平成30年10月24日実施



(2) 題材について

運動の特性 **※単元構想参照**

(3) 本時の指導について

まず、導入では、単元を通して行っているウォーミングアップをかねたダンス（上田裕美先生考案による）を踊り、柔軟性を高め、リズムダンスのスキルアップを図る。次に行うイメージカルタを使った表現遊びでは、心身がリラックスした状態を作るとともに、グループの表現動作と関連する動きを取り入れていきたい。展開の学習活動4では、松蔭小、神山小から送られてきた「漁」をイメージした動画を視聴し、自分たちが考えた表現とのつながりを再確認させる。学習活動5では、プレ発表会（1班）を行い、よりよい動きに必要な課題を見付け、改善するための話し合いを行う。その際、付箋紙を用いて、友達の動きでよかったところ、まねしてみたいところ、アドバイスできることなどを書き、自分の考えを伝えられるようにする。そして、学習活動6において、話し合ったことを生かしながら、自分たちが理想とする表現に向けてグループ別の練習、全体のまとめへとつなげていきたい。本学級の児童は、オリエンテーションで行った上田先生との交流を通して、表現運動に対する意識が高まっている。今回の学習を通して、思い描いたイメージを体で表現する楽しさや、友達と協力して動きを工夫しながら作品を創作する喜びを味わわせたい。